

Hepatocellular carcinoma with a non-smooth tumor margin on hepatobiliary-phase gadoxetic acid disodium-enhanced magnetic resonance imaging. Is sectionectomy the suitable treatment?

著者名	Andrea Romanzi
発行年	2020-12-18
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/00032832">http://hdl.handle.net/10470/00032832</a>

## 主論文の要旨

Hepatocellular carcinoma with a non-smooth tumor margin on hepatobiliary-phase gadoxetic acid disodium-enhanced magnetic resonance imaging. Is sectionectomy the suitable treatment?

EOB 造影 MRI 肝細胞造影相で辺縁不整像 (non-smooth tumor margin) な肝細胞癌に対し区域切除 (Sectionectomy) は適切な治療法ですか?

東京女子医科大学消化器外科学教室

(指導：山本雅一教授)

Andrea Romanzi

J Hepatobiliary Pancreat Sci 雑誌 (2020 年 5 月に Online 掲載)

### 【要 旨】

**背景：**解剖学的区域切除は区域内に局限する顕微鏡的脈管侵襲陽性肝細胞癌 (HCC) の切除成績を向上すると報告してきた。しかし、顕微鏡的脈管侵襲を術前に診断することは困難である。最近、EOB 造影 MRI 肝細胞造影相での辺縁不整像により顕微鏡的脈管侵襲の予測が可能であることが判明した。今回、手術成績向上における EOB 造影 MRI 肝細胞造影相の有用性を検討した。

**方法：**2010年から2013年の単発肝細胞癌患者224例を検討した。腫瘍の辺縁不整 (non-smooth tumor margin) か辺縁整 (smooth tumor margin) かを術前に決定した。5年無再発生存率と生存率および予後因子を多変量解析と傾向スコア (プロペンシティスコア) により解析した。

**結果：**辺縁不整 113 例のうち 40 例 (35%) で顕微鏡的脈管侵襲を認めた。これらでは区域切除例の 5 年無再発生存率および 5 年生存率 (41%、82%) は、亜区域切除例 (6% :  $p=0.0019$ 、43% :  $p=0.0145$ ) より有意に良好であった。辺縁整 111 例のうち 8 例 (7%) で顕微鏡的脈管侵襲を認めた。これらでは区域切除の 5 年無再発生存率および 5 年生存率 (50%、72%) は亜区域切除 (33% :  $p=0.21$ 、60% :  $p=0.37$ ) と有意差はなかった。

**結語：**EOB 造影 MRI 肝細胞造影相は手術計画に有用であり、辺縁不整がある場合は解剖学的区域切除が推奨される。